



12月園だより

2020年12月
尚徳福祉会
沼袋西保育園

今年年初早々にコロナによる緊急事態宣言が発令され、今まで経験したことのない時間を過ごすこととなりました。保護者の方にもたくさんのご協力をいただきました。ありがとうございます。

新型コロナウイルス感染防止策をとりながら保育活動や行事を中止にせず「3密」回避することに苦慮し、感染のリスクに憂慮する日々でもありました。様々な経験値が成長に直結する子ども達の生活を守り、その機会を奪わないこと、そのために職員で知恵を出し合い力を尽くすことの大切さを発表会に向けて笑顔で取り組む子ども達の笑顔を見ながら痛感しています。

都内の感染者が日々増加し心配も絶えませんが、園ではなるべくいつもと変わらない日常を保障し、変わらない安心感を子どもに伝えることができるといいなと思っています。いつ終息するのか、わからない状況ですが、子ども達にとっては一生に一度の保育園生活です。楽しく、笑顔になれる毎日を過ごして欲しいと思います。

12月はクリスマスにおもちつき、大掃除に年末のお買い物等、子ども達にとっては楽しいことがいっぱいです。子ども達にできる簡単なことはお手伝いをさせてあげてください。お父さんやお母さんの役に立てたということはとても大きな喜びであり、自信につながります。

年明け元気な子ども達に会えることを、楽しみにしています！！

よいお年をお迎えください。来年もどうぞよろしく願いいたします。



☆12月の予定☆

- 2日(水) 避難訓練
- 8日(火) 幼児身体計測
- 9日(水) 乳児身体計測
- 10日(木) 総練習(2・4歳)
- 11日(金) 総練習(3・5歳)
- 15日(火) 発表会(2・4歳)
- 16日(水) 発表会(3・5歳)
- 23日(水) もちつき会
- 24日(木) ピエロからのおくりもの(幼児)
- 29日~1/3は年末年始休みです。

※7・14・21日の各月曜日、英語であそぼう(幼児)

☆1月の主な予定☆

- 7日(木) 避難訓練
- 12日(火) 幼児身体計測
- 13日(水) 乳児身体計測
- 15日(金) ゆり組サッカー指導(予定)

※18日・25日の各月曜日、英語であそぼう(幼児)

☆お知らせ・お願い☆

○当園では車での登降園はご遠慮いただいております。沢山の子ども達、自転車を通る場所です。通学路にもなっております。ご理解いただき、ご協力をお願いいたします。必要な方は近くの駐車場をご利用下さい。

○日頃から感染予防にご協力いただき、誠にありがとうございます。における感染状況の警戒レベルが引き上げられました。引き続きマスクの着用、手指消毒、検温、体調管理をよろしく願いいたします。また、園内での滞在時間の短縮にご協力いただきお迎え後は速やかに降園をお願いいたします。

○12月より就学に向けて5歳(ゆり組)のお昼寝がなくなり戸外やお部屋で遊んで過ごします。

○24日(木)にピエロによるショーを予定しております。感染症対策を行い、少人数ずつの2部制で舞台から距離をとり観覧します。(対象:幼児)

○年明けから予定しております各クラスの保護者会は資料配布とさせていただきます。ご希望の方には個別に面談をさせていただきます。各クラス担任までお申し出ください。動画はホームページ上で観て頂けるよう調整中です。近くなりましたら、お知らせいたします。

○登園が遅くなる場合、お休みする場合は朝9時30分頃までに連絡をいただけますよう、よろしくお願いいたします。

○本日、災害用伝言ダイヤル(171)体験利用日です。この機会に利用されたことのない方はご確認をお願いいたします。本日(1日)24時まで体験可能です。

子どもの成長にお手伝いは欠かせない

主婦の友社 3~6歳 能力を伸ばす 個性を光らせる
著者 汐見 稔幸 氏

お手伝いは「お母さんといっしょ」「責任を持ってひとりでやる」の2つ

幼児期のお手伝いには2種類あります。ひとつは家事の体験としてのお手伝い、もうひとつは家族の一員として、責任を負うお手伝いです。

1つ目のお手伝いは、手伝わせるといよりは、料理を作ることが好きになったり、手先が器用になったり、自立していくために必要な家事を覚えたり、あるいはお手伝いしながらお皿の枚数を数えたりすると頭の訓練にもなると考えて、楽しく家事を体験させようとするお手伝いです。

2つ目は、ほんとうのお手伝いです。「お風呂を洗っておいてね」「ごみを出してね」と頼んで、「あなたがいなくて困るのよ」という形でまかせようとするお手伝いです。

昔は4~5歳になれば、火を起こしたり、バケツに水をくんだり、豆の皮をむいたり、かつお節を削ったりと、すでに「労働力」になっていました。幼児でも、みんなが一生懸命に働いているときに、自分だけ遊んでいるのは悪いと思って手伝ったものです。しかし、いまは子どもの手を借りなくてはやっていけない場面が少ないので、「子どもにまかせのお手伝い」はちょっとむずかしいでしょう。幼児期はいっしょに楽しくお手伝いをするということが基本になります。

ていねいな生活ができる人に育てる

料理を手伝わせている時は「包丁がじょうずに使えるようになったね」「だしがとれるなんて、たいしたものだね」とおだてたり、掃除では「こんなにきれいになってうれしい」と感謝します。

子どもはおいしいものが作れたり、きれいに掃除ができるとうれいだから、家事も楽しくなります。そうやって家事のやり方を教えていくようにします。

「おいしい料理が作れるのはうれしい」「窓をきれいにふくと気持ちがいい」と感じ、「ごはんをちゃんと作れることや家がきれいになることはうれしいことであり、苦痛ではない」という体験の積み重ねがたいせつです。

そうやって育てていくと、大人になったときも、食事作りや掃除、洗濯を苦にせず、こまめていねいに毎日の生活ができるタイプの人になります。

いまは食事も買ってすませるような時代になっ

ているので、ほうっておくと「家事なんてめんどうだ」ということになります。家事を楽しみながら少しずつ教えていくのは、幼児期から始めるのがいいですね。

お手伝いをまかせるときは お母さんも別の仕事をしよう

お風呂掃除や洗濯物をたたむなどの家事を、子どもにまかせてやってもらうとしたら、そのときはお母さんも別の仕事をしましょう。子どもは、「めんどくさいな」と思ってもまわりのみんなも働いているのなら、自分だけサボるわけにはいかないとしますが、親が寝ころんでテレビを見ているときにやらされたら、お手伝いがいやになります。「お母さんがこれを行っている間にそっちもやっておいて」という状況でやってもらうことです。

そして、「うれしいわ」「助かるわ」と感謝の気持ちを伝えると、それが子どもの誇りになって、お手伝いの気持ちの支えになるのです。「あなたの役割でしょ」と形式的にやると働くことが嫌になります。お手伝いをさせれば子どもがうまく育つ、というわけではありません。心が通っていないお手伝いにははいけません。

学力もやる気も伸ばすお手伝い

5~6歳になるとだんだんと本格的にお手伝いができるようになります。同じお手伝いを毎日やっている、子どもは「どうやったらもっと早くできるか」「もっとうまくできるか」を考え、工夫するようになります。要領よくやるために集中力が育ちます。そして受け身ではなく、自分から工夫をする、自分で何かを作っていくという意欲も育てます。お手伝いは一人前に自立できる能力を育てつつ、自分で考えて工夫するというような「心の育ち」としてもたいせつです。

